

富士山

富士山是日本的象征。

距今大约 400 年前，江户时代的诗人石川丈山曾以富士山为题材，吟诵过一首七言绝句。诗中写道：

仙客来游云外巅，
神龙栖老洞中渊。
雪如纨素烟如柄，
白扇倒悬东海天。

意思是：富士山高耸入云，常有神仙到此一游。山顶凹陷处有一片池塘，日升月落岁月悠悠，这里乃是神龙的居所。富士山就像一把打开的折扇，上下颠倒，悬挂在东方之海的蓝天之下。山上的白雪光洁莹润如细绢，山顶升起的烟雾就像扇柄一般。

富士山是日本第一高山，海拔 3776 米，呈完美的圆锥形，360 度没有死角，任何方位看过去都是一个三角形。而且，富士山独立于周边山脉，是一座孤山。自山顶而下的线条一直延伸到太平洋，平滑流畅，无遮无挡。

富士山的山体犹如一把倒挂的折扇，顶天立地，美不胜收。山顶附近有积雪终年不化。过去，出于对神秘而伟大的大自然的敬意，日本人将富士山称为“灵峰富士”，把它看成是一座圣山。

直到今天，富士山仍有许多未解的谜团。

首先，为什么会叫“富士山”这个名字？

“山”自然表示山峰。那么，“富士”二字究竟是什么意思？其实，没有人知道。过去，除了现在的“富士山”之外，还流传着其他好几种名字，比如“不二山”、“不尽山”、“不死山”等等。虽然汉字不一样，可是，日语发音都是“Fujisan”。

“富士”这个名字究竟由何而来，至今没有定论。

第二个问题，谁是第一个登顶富士山的人？

公元九世纪、平安时代初期的日本文献中，有一段文字描述了富士山顶火山口内部的景象。由此可见，在古代就已经有人成功登顶富士山。但第一个登顶的人究竟是谁，叫什么名字，至今不明。

现代有登山运动，攀登高山纯粹为了享受登上山顶的乐趣。但在古代，还没有发展出这样的运动。

富士山是一座名山，古人通常只是远远地观赏。无论贵族还是将军或地方领主“大名”，大家都不会去攀登富士山。只有一些非常特殊的人群，比如信奉与富士山相关的宗教信仰的僧侣和信徒们，才会登上山顶。而且，因为富士山是神圣的“灵峰”，所以在古代禁止女性攀登。

后来，到了江户时代，将富士山作为崇拜对象的信仰普及到了平民百姓阶层，于是掀起了一股攀登富士山的热潮。不过，贵族和女性依然受到限制。江户时代的日本政府、也就是江户幕府，只允许出身低微的平民攀登富士山，而禁止贵族攀登。不过，到江户末期时，幕府式微，威信大不如前。

在江户时代接近尾声的 1832 年，一个名叫高山 Tatsu 的女人女扮男装，混在男信徒中登上了富士山。就现存记录来看，她是历史上第一位登顶富士山的女性。

1852 年，领主“大名”松平宗秀打破幕府禁令，登上了富士山顶。据说，他是江户大名中唯一一位登顶富士山的人。

1860 年，英国外交官卢瑟福·奥尔科克提出想攀登富士山。虽然幕府表示“只有出身低贱的平民才会这么做”，但奥尔科克没有退让，说服幕府获得了批准，登上了富士山顶，据说，他是第一位登顶的外国人。

1868 年，江户时代结束，明治时代拉开大幕，西方的登山运动也传到了日本。从此，富士山成了一处旅游景点，普通人也可以自由攀登了。

前面说过富士山是一座高高耸立的孤山，从很远的地方都可以看见。气候条件理想的话，在 300 公里开外的地方都可以拍到富士山的照片。

遇上天气晴朗的日子，东京的高楼和视野开阔的屋顶也可以看见富士山。坐新干线或飞机时，有时也会有美丽的富士山相伴。

我平时在东京看到富士山时，常常会用手机拍下来，分享到社交媒体上。一年四季，看见的富士山各不相同，有时是早晨，蓝天白云，有时是傍晚，落日映红。

大家以后来日本，不妨也可以用相机定格下您所看到的富士山！

《加藤老师来开讲!》是 NHK 日本国际传媒中文广播节目《波短情长》中的小栏目，特邀日本明治大学教授加藤彻深入浅出、诙谐幽默地讲解日本文化。您有没有想要了解的日本文化或习俗？欢迎给本节目来信或留言！



富士山

富士山は日本のシンボルの一つです。

今から4百年ほど昔、江戸時代の詩人・石川丈山は、富士山を七言絶句に詠みました。

仙客来遊雲外巔。
神龍栖老洞中淵。
雪如納素煙如柄、
白扇倒懸東海天。

意味は——富士山の高い山頂は雲の上にある。そこは、神仙が遊びにくるという。山頂のくぼみには池があり、悠久の歳のあいだ神秘的な龍が住んでいるという。富士山の姿はまるで、東の海の青空に上下逆さまに広がった扇子のようだ。山の白い雪はつつやとした練り絹のようで、山頂から立ち上る煙は扇子の柄のようだ。

富士山の高さは3776メートルで日本一。きれいな円錐形で、360度、どの方向から見ても三角形です。しかも周囲の山とはつながっていない独立峰です。太平洋の浜辺から、富士山の頂上まで、そのまま何もさえぎるものがなくすーっと続いています。

扇子を上下逆に開いたような、大地の上に天に向かってスクツと立つ美しい形。山頂付近の白い万年雪。もくもくと天に立ち上る煙。昔の日本人は、大自然の神秘と偉大さに敬意を表して、富士山を「霊峰富士」、つまり神々しい神仏の山、と呼んで尊びました。

富士山には多くの謎があります。

富士山は、なぜ富士山という名前なのか。

富士山の「山」はヤマという意味ですが、「富士」がどういう意味なのかは、実はよくわかりません。昔の日本では、富士山の他にも、不二山、不盡山、不死山などいろいろな表記がありました。フジという地名の由来は、今も定説はありません。

富士山の頂上まで最初に登ったのは誰なのか。

平安時代の初め、9世紀の日本の文献記録には、富士山頂の火口の内部の様子が描かれています。それゆえ、富士山の頂上まで登った人が昔からいたことは、確実です。ただし、最初に富士山の頂上まで登った人の名前はわかりません。

現代人は、純粋に登頂することだけを目的として高い山に挑むスポーツ登山を楽しみますが、昔は、今のような登山はありませんでした。

富士山は有名な山ですが、昔の人は下から見上げてその景色を楽しみました。貴族も将軍も大名も、登らずに遠くから眺めました。頂上まで

登るのは、富士山にまつわる宗教信仰の僧侶や信者とか、特殊な人に限られました。富士山は神聖で宗教的な「霊峰」だったので、昔は女性の登山にも制限がありました。

江戸時代になると、庶民のあいだに富士信仰が広まり、富士山に登ることがブームとなりました。しかし貴人や女性の富士登山は、依然として制限されていました。江戸時代の日本の政府であった幕府は、富士登山は身分が低い庶民がするもの、として、貴人の富士登山を禁止しました。が、江戸時代も末になると、幕府の力も衰えました。

江戸時代も終わりに近づいた1832年、高山たつ、という名前の女性が、富士山信仰の男性信者に混じり、男装して富士山に登りました。記録に残る限りでは、彼女は最初に富士登山を果たした女性だと言われています。

1852年、大名であった松平宗秀は、幕府の禁令をこっそり破り、富士山の頂上まで登りました。これは、江戸時代の大名による富士登山の唯一の例とされています。

1860年、英国の外交官ラザフォード・オールコックは、富士登山を希望しました。幕府は「富士登山は、身分が低い庶民が行うものですよ」と渋りましたが、オールコックは幕府を説得し、許可をもらい、富士山の頂上まで登りました。これが外国人による最初の富士登山と言われていきます。

江戸時代が終わり、1868年に明治時代が始まると、日本にも西洋のスポーツ登山が伝わりました。富士山は観光地となり、一般人も自由に登山を楽しめるようになりました。

富士山は高い独立峰なので、遠くからもよく見えます。条件が良ければ、300キロメートルくらい離れたところからも、カメラで富士山を撮影することができます。

東京からも、晴れた日は、ビルの高層階や屋上から、富士山が見えます。新幹線や飛行機の窓から見える富士山もきれいです。

私もときどき、自分のスマホで、東京から見える富士山を撮影します。そしてその写真をインターネットのSNSにアップして、シェアします。真っ白な雪が青い空に映える朝の富士山とか、夕日に真っ赤に染まる富士山とか、富士山は四季折々、豊かな表情を見せてくれます。

もし日本にいらしたら、ぜひ富士山の写真を撮ってみてください。

「加藤先生の開講コーナー！」はNHK国際放送のラジオ番組『波短情長』のコーナーです。明治大学の加藤徹教授が、日本の文化について楽しく解説します。あなたの知りたい日本の文化や風習は何ですか？メッセージもお待ちしております。

